

## 消費者庁主催「平成30年度 消費者月間シンポジウム」開催

### 第33回2017年ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」の受賞者を紹介

#### 会場内で、ACAP消費者啓発展を実施



会場に向けて挨拶をする橋口さん



岡村長官を囲む「わたしの提言」受賞者の皆さま



5月28日、イイノホール&カンファレンスセンター(東京都千代田区)で、消費者庁主催による「平成30年度消費者月間シンポジウム」が開催された。今年度の消費者月間統一テーマには、消費者庁においてもSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、施策に取り組んでいることから、「ともに築こう豊かな消費社会～誰一人取り残さない～」が掲げられた。シンポジウムはSDGsの必要性や現状、取り組むべき課題などを題材にした基調講演やパネルディスカッションなどが実施された。

シンポジウムでは、消費者支援功労者の発表とともに、第33回2017年ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」の受賞者紹介もおこなわれた。司会者より名前が読み上げられると、各受賞者は緊張した面持ちで、250名を超える参加者に起立の上一礼し、大きな拍手が会場から寄せられた。なかでも最優秀賞「内閣府特命担当大臣賞」を受賞された木更津市消費生活センター消費生活相談員の橋口京子さんは、「消費生活センター発 ACTION! SDGs プロジェクト～消費生活相談現場からの提言～」の作品名や作品内容についても紹介され、注目も大きかった。

会場のホワイエでは、ACAP消費者啓発委員会がブースを設けて消費生活展を開催。会員企業の消費者の声を活かした製品・パネル展示、ACAPバーチャル工場(施設)サイトの紹介、消費者啓発資料の展示・配布をおこなった。多くの方がブースに立ち寄り、約350部用意した資料はすべてお持ち帰りいただいた。

シンポジウム後には「わたしの提言」の受賞者も参加して、関係者による懇談会が開催された。受賞者の皆さまはリラックスした表情ながらも、自身の提言内容について、行政や消費者団体、事業者などと意見交換している姿に、「わたしの提言」の意義を再確認することができた。



谷一暢樹(消費者啓発委員長/TOTO)

無断転載・転用禁止